

教師の「深い」省察を支え促す 改革方途の究明

教育実践科学コース 助教 高野 貴大

省察 (reflection)

=専門職者が自身の実践を自己の内面に留まらず、適度な批判性をもって省みること。

異なる背景を省察する必要
(経済的・社会的要因など)



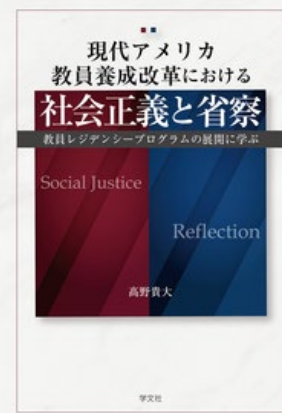
特に、社会的排除に
鋭く向き合う必要
例:

- ①不登校の子ども
- ②外国籍の子ども
- ③障害のある子ども
- ④貧困家庭の子ども
- ⑤被差別部落の子ども
- ⑥周辺化される目立たない子ども

社会正義の実現に向けて

教師の見取りの「深さ」とは？
公教育の担い手として、学校の先生は教育実践を展開する際、どこまで思考をめぐらせればよいのか。目の前の子どもの背景に、何をどこまで見取ればよいのか。
こうした大きな問いに対して、「省察」と「社会正義」を鍵概念に研究してきました(左図参照)。そして、それらが制度的・組織的条件のもとで、いかに支えられ得るか、その条件整備やガバナンスの在り方にも視線を向けています。

日本学術振興会 科学研究費補助金 を受けています



「教師教育における「批判的省察」実現のための条件整備に関する日米比較研究」について、から補助金を受けて研究を行っています。

(科学研究費補助金若手研究:
研究代表者 高野貴大)

単著、学文社、2023年

アメリカ合衆国における 教師の「深い」省察と「社会正義」

アメリカ合衆国では、1980年代後半以降、教師の省察概念のブームが起きた一方で、1990年代からは疑念も表明されました。なかでも「批判的教授学」の視点から、公教育の担い手としての教師が社会的文脈までを深く熟慮して実践を行う必要性が提起され、「社会正義」志向の「省察」が着目されました。

「社会正義」志向の省察が特に求められる都市部(アメリカでは社会的・経済的格差の困難度が都市部において顕著に表出しています)では、「社会正義」志向の省察を重視した教員養成プログラムが新たに展開しています。これらのプログラムは、既存の教員養成とは異なる「第三の領域」として展開しており、改革方途の在り方に特徴が見られます。

今後の課題 ～ガバナンス研究として

ガバナンスとは、公的セクター中心から民間セクターに開かれた公共管理への移行を企図します。様々なアクターを巻き込んだ教員養成の在り方を考究していきたいです。

教育委員会

保護者・地域住民

民間企業・財団

NPO法人・大学